

【小学校高学年の部】最優秀賞

つなぐふるさとの未来

別府市立山の手小学校 6年

たなべ あおい
田邊 葵

私の祖母が住んでいる町は、杵築市大田です。大分県の北部、国東半島の中央にあり人口は約千人の町です。2005年に杵築市の一部となりました。町にはコンビニエンスストアはなく、商店もあまりありません。そして、信号機が2機しかなく、ほとんどが、田んぼや畑が広がる小さな町です。

私は年に数回、祖母に会いに行くのですが、病院への通院や、買い物が大変だとよく聞きます。その際祖母が困っていることやできないことを父と一緒に手伝います。

まずは、回覧板を届けることです。となりの家までのきょりが遠く、歩いて持つて行くことが困難なので、代わりに持つて行きます。町には、商店が少ないので車で30分の所にあるスーパーへ買い出しに行きます。また家の畑や田んぼの草刈りや水まきなどの仕事も手伝います。たくさん仕事の手伝いもありますが、楽しいこともあります。春はたけのこほり、夏は家の畑で育てた野菜の収穫。秋は、いもほり。冬はたこ上げや羽つきをして遊びます。

私が祖母の家で過ごしていると、近所の方から野菜をもらうことがあります。94才のおばあちゃんです。おばあちゃんは、何種類もの野菜を作っています。私が育てたきゅうりより、とても立派なきゅうりなので、

「どうやったらこんなにまっすぐなきゅうりになるんですか？」と聞いてみると、

「水や気温を見ながら肥料をやったりするんよ。毎日少しずつ手入れをするといいよ。」

と教えてくれました。おばあちゃんだけではなく、みんなが優しく声をかけてくれます。

そして今年。大田は杵築市になり20年をむかえました。毎年行っている横岳夏まつりで初めて花火を上げるようになりました。父はその祭りの実行委員になったので、私は手伝うことにしました。

祭りはまず、予算を決めて内容を決め、寄付金を集めることから始まりました。

イベントに出る人を集めたり、屋台を出してくれるお店を探したり、音響や警備員の手配もあります。花火を打ち上げるにあたって消防団の協力も必要でした。私は父と抽選会の景品の買い出しを手伝うことにしました。

景品を買うときに気をつけたことは、予算内で済ませること、子どもから高齢者まで使える物にしなければいけないと思いました。当たって嬉しいと思える物を選びましたが、本当に喜んでもらえるかが不安でした。

大田で初めての花火の打ち上げは大成功でした。たくさんの花火がまるで星のように降ってくる感じがしました。そして、抽選会では、一つ一つ商品を喜んでもらえてとても嬉しかったです。

大田は高齢化が進み、この祭りを続けていくことも難しくなるかも知れません。ですが、この祭りに参加した子どもたちが次の祭りの実行委員となり、未来へとつないで、残してほしいと思います。